

中学校 音楽部会

部会長名 赤村立赤中学校 校長 荒川 正史

実践者名 香春町立香春思永館 教諭 田端 幸彦

1 研究主題

「思考力・判断力・表現力を育む音楽科学習指導の工夫」
～ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して ～

2 主題設定の理由

(1) 社会的な要請と教育の動向から

情報化やグローバル化といった急激な社会的変化の中で、子どもたちに持続可能な社会の創り手となるために必要な力を身につけさせることが、これからの学校教育に求められている。平成29年に告示された学習指導要領では、これまでの学校教育の蓄積を生かし、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指している。そのため、目標及び内容が、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で再整理された。

音楽科では、音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図を持って表現したり味わって聴いたりする力を育成すること、音楽と生活との関わりに関心を持って、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度を育むこと等に重点を置いて、その充実を図ってきた。一方で、感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや価値等を考えたりしていくこと、我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさを一層味わえるようにしていくこと、生活や社会における音や音楽の働き、音楽文化についての関心や理解を深めていくことについては、更なる充実が求められるところである。

これまでの成果やこれからの課題に適切に対応するには、質や深い学びが重要であり、子どもたちが、「どのように学ぶか」という「主体的・対話的な学び」の実現に向けた授業改善を図ることが重要であるため、田川郡音楽部会として本主題を設定した。

(2) 生徒の実態から

本校の生徒は、音楽科の学習活動に意欲的に取り組む生徒が多い。しかし、作者の思いがこもった歌詞や曲調から読み取った思いや自分のイメージを音楽記号と関連付けきれず、いかなる作品のどの部分も同様に歌唱表現する生徒が多い。また、歌唱や演奏をすることは好きだが、作者の思いを思考できずに教師の助言のみで受け身になっている生徒、苦手意識が強く自分の思いを表現したり発表したりすることに抵抗を感じている生徒もいる。

これらのことから、他者と協働して思考する時間を確保することにより、作者の思いや意図を音楽記号を通して理解し、積極的に音楽活動に取り組む生徒が育つと考えた。このことは、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、これからの社会を心豊かに生きてく生徒に求められている資質・能力を育成する上で意義深いと考える。

3 主題の意味

(1) 思考力・判断力・表現力を高める音楽科学習指導

曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする力である。(1年生は、音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながら美しさを味わって聴くことができるようにする力である。)

(2) 音楽科における「主体的・対話的で深い学び」

主体的・協働的に表現及び鑑賞の授業に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養うことである。(1年生は、主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養うことである。)

4 研究の目標

本研究の目的は、音楽表現をより豊かにするために、どのようにしたら思考力・判断力・表現力が高まるのかを明らかにすることである。そのために交流活動を通して主体的な学びにつながる方策を見いだすことをねらっていく。

5 研究仮説

表現活動において、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じさせるための適切な支援を行ったり、グループや全体での交流を通して、自分の考えと友だちの考えを比べさせ違った考えに触れたりする活動を行えば、生徒は自分の考えをさらに深化させ思考、判断し、思いを音楽的根拠に基づいて表現できる力が高まるだろう。また、自分たちで考え、工夫し、表現をつくりあげていく経験を重ねることが、自分たちの力で更にもっと豊かな表現をしていきたいという主体的な学びにつながるであろう。

6 研究の計画 (授業の計画)

(1) 題材名 「思いをこめた表現」

教材名 「ふるさと」(高野辰之 作詞 岡野貞一 作曲)

(2) 題材の目標及び指導計画

題材	合唱「ふるさと」	総時数	5時間	時期	10月
単元の目標	<p>○「ふるさと」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身につける。 (知識及び技能)</p> <p>○「ふるさと」の旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したこと・感受したこととの関わりについて考え、歌表現を創意工夫する。 (思考力、判断力、表現力等)</p> <p>○歌詞の内容や曲想に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。 (学びに向かう力、人間性等)</p>				
次	時	具体的な目標	学習活動・内容	指導上の留意点(働・場)	
1	1	「ふるさと学習」の振り返りを行い、「私たちが住んでいるふるさとに対する思い」のアンケート結果を知り、歌唱「ふるさと」を学習していくことを確認する。	・歌詞や曲から受ける気持ちや感想を交流する。	・自分たちのふるさとに対する思いと作者の思いの共通する部分を見つける。	
	2	主旋律を練習する。	・曲から受ける印象を発表し合い歌詞に込められた思いを考える。	・作者がこの曲を作った時のエピソードを伝え、歌詞に込められた思いを考えさせる。	
			・リズム打ちをする。	・模範を示し、個人や小グループで練習させる。	
			・タブレットの音源を聴きながら、音取りをする。		
2	1	曲にふさわしい表現の仕方を考え、主旋律を歌う。 (本時) 1/2	・音楽記号を確認し、表現の工夫を考え練習する。	・楽譜の音楽記号を確認させ、音楽的表現から考えさせる。	
		・強弱に変化をつけて歌い作者の意図を考える。		・実際に歌い試し、工夫を感じ取らせる。	
	2	・歌詞の内容や曲の雰囲気にあった歌い方の工夫を考え、下声部の練習をする。	・創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら練習する。	・前時の内容を再確認させ、強弱と歌詞の関わりを意識しながら歌うように促す。	

3	1	二部合唱を仕上げる。	・合唱を完成させる。	・各パートの役割と全体の響きとの関わりを意識しながら歌うように促す。 ・自分たちの歌を録音し、評価をする。
---	---	------------	------------	--

7 実際の指導

(1) 本時の主眼

楽譜の3段目が「P」になっている良さについて、3段目を1段目と同じ強弱にした表現と比べて歌ったり、そこで感受したことについて話し合ったりする活動を通して、作曲者と作詞者の思いや意図をくみ取り、曲の特徴にふさわしい表現を工夫して歌うことができる。

(2) 授業仮説

表現領域において、イメージや思いを伝える音楽の構成要素の働かせ方を工夫して表現しようとするれば、強弱や各声部の重なり方についての作曲者の意図や歌詞の内容との関わり方を理解する生徒が育つであろう。

(3) 準備

教師：①拡大楽譜 ②ワークシート ③CDデッキ ④練習用CD ⑤タブレット

生徒：⑥楽譜 ⑦ワークシート ⑧タブレット

(4) 展開

	学習活動と内容	教師の支援と手立て（評価規準）	形態
つかむ・見通す 8分	<p>1 教師の演奏を聴いて、どちらの表現がこの曲に合いそうか考え、本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師の演奏（2種類）を聴き、違いやどちらの表現で歌ったら良さそうか考えを出し合う。  <p>1回目は変化がないけど、2回目は強弱がついているね。 2回目の方が、曲の雰囲気が出ると思う。</p> <p>(めあて) 「ふるさとへの思いが伝わるように、強弱の表現を工夫しよう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 強弱を考えないで演奏したものと楽譜通りに強弱をつけて演奏したものを比べさせ、違いとどちらの表現がこの曲に合いそうか考えさせる。 前時までの自分たちの課題について提示し、めあてにつなげる。 	全
つくる 10分	<p>2 強弱をつけて歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1, 2段目と3, 4段目に区切って歌ってみる。 <p>3 3段目がなぜ「P」なのかを考え、表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2種類（3, 4段目も1, 2段目と同じ強弱、3段目がP）の表現で歌い比べて考える。 歌い比べて、感じたことをタブレットにまとめ、ペア、全体で交流する。 全体で表現を考える。  <p>Pにすることで、2番の寂しそうな感じが伝わる。4段目の気持ちを盛り上げることができているね。</p> <p>3段目になったら、ぐっと小さくしてみる？ 寂しそうな声にしてみたらどうかな？</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各記号の強さを視覚的に捉えることができるように、色の濃淡で表した楽譜を提示する。 なぜ、3段目だけPなのか、Pにすることでどんな良さ（効果）があるのか投げかけ、次の活動に進む。 作曲者の意図を感受できるように、2種類の楽譜（1, 2段目と3, 4段目の強弱が同じもの・3段目をPにしているもの）を提示する。 歌詞にも着目することをアドバイスする。 ペアで交流したあとに感受し、考えたことを全員で共有するために、タブレットの共有機能を使う。 	全
深める 25分	<p>4 強弱の良さを生かして斉唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体で強弱の変化や歌い方を合わせて斉唱する。 録音する。 <p>5 振り返りとまとめを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> 強弱を工夫して歌ってみてどうだったのか振り返り、まとめを行う。 <p>(まとめ) 強弱の変化をつけて歌ったり、言葉にあった歌い方をすると (生徒が気がついたことを書かせる。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ふるさとへ思いを抱く感じが表現できる。 歌詞の内容や思いがより一層聴き手に伝わる。 	<p>【協働学びの視点①】 3段目がなぜ「P」になっているのか、個人で考えさせたあと、ペア、全員で交流させる。 《個→ペア→全体》</p> <ul style="list-style-type: none"> 次時で自分たちの歌を確認して、もっと表現豊かな歌い方を考えられるように録音する。 タブレットで振り返りとまとめを行う。 <p>【評価】 強弱や歌詞の内容、フレーズ間のつながりなどから、作詞者・作曲者の意図をくみ取り、強弱に変化をつけた歌い方の良さを感じ取りながら歌うことができている。(タブレット)</p>	個 全
振り返る 7分			

8 研究のまとめ

本題材において、思考力・判断力・表現力を育むために次のような交流活動の手立てをとった。

- 教師の模範演奏を聴き、どちらの表現の方が聴き手に思いが伝わるような音楽表現（歌唱）になっているのかを考えさせ、自分たちの課題について確認させる。
- 歌詞の内容と音楽記号を確認し、作曲者の意図を考えさせる。
- 個人で考えた工夫をタブレットで提出させ、各グループで交流し工夫をまとめさせる。
- グループや全体での交流を行い、友だちの考えと自分の考えを比べさせ、新たな考えを知ること、自分の考えを深化させる。
- 録音を行い、練習前後の合唱を聴き比べさせ、表現を工夫して歌うことで合唱がより豊かになっていくことに気付かせる。

9 成果と今後の課題

- 教師の模範演奏や自分たちの録音を聴くことで、演奏の課題を客観的に確認することができた。
- 様々な表現で実際に歌う活動を通して、音楽の要素と関連付けて考えることができていた。
- グループ活動を中心に自分たちで表現の工夫を考え、練習を進める活動を通して、より一層表現活動への意欲が高まり、主体的に活動する場面が多く見られるようになった。
- 話し合い活動に時間がかかり、歌う活動時間が少ないことがあった。歌う活動時間を十分に取れるように、ワークシートや取り組みの方法をさらに工夫していく必要がある。
- 生徒が主体的に自分の考えを発表し、グループ内で意見をまとめたりすることはできていたが、上・下パート別での練習時に、まだ大きな声が出ていない生徒も見られたので、リーダーが率先して声かけを行い、生徒の自主的な活動になるよう促す必要がある。

◎ 参考文献

- ・ 文部科学省 「中学校指導要領解説 音楽編」平成29年7月